

令和5年度大学教育再生戦略推進費
「地域の医療ニーズに対応した先進的な薬学教育に係る取組支援事業」申請書

代表校名	広島大学
連携大学名	島根大学
事業名	連携で地域医療を支える薬学教育の構築 ～中高大接続から大学・行政・病院薬局連携でシームレスに地域を支える ヒロダイ薬学教育拠点～

事業の構想等

1. 事業の構想

(1) 全体構想 (※①事業の概要等～④新規性・先進性までで3ページ以内【厳守】)

①事業の概要等

薬剤師の地域偏在が招く中山間地域医療の崩壊は解決すべき喫緊の課題であり、広島県や島根県でも中山間地域における薬剤師不足から持続的な医療提供が困難になっている。その原因として、地域へ薬剤師を配置するシステムの欠如、地域医療に対する中高生・大学生の意識の未成熟が挙げられる。これらを解決するために本取組では、1) 地域医療連携協働体である「地域医療薬学コンソーシアム」と中山間地域の薬剤師を確保する「地域薬剤師配置システム」の構築、2) 医療機関と学生・薬剤師を結ぶ、全国初の「ヒロダイマッチングシステム」の開発、3) 中学生・高校生から大学生までをシームレスに教育し、地域医療を自らの課題として考える力を培い、U・Iターンを促進する「地域と県を超えた連携教育」を行う。これら取組により、中高大接続と大学・行政・医療機関・薬剤師/医師連携でシームレスに地域医療を支える「ヒロダイ薬学教育拠点」を構築する。(397字)

②申請の背景

【申請に至った背景、問題意識、課題】

広島県は無医師地区の数が北海道に次いで全国で2番目に多く、島根県も7番目に多いという現状にあり、薬剤師も医師と同様に地域偏在と慢性的な人員不足が大きな課題となっている(令和2年9月4日日本学術会議提言「持続可能な医療を担う薬剤師の職能と生涯研鑽」)。薬剤師が中山間地域等で働くことを避ける原因としては、生活に不便がある、働き場が少ない、近隣に薬剤師が少なく孤立する傾向にある、などが指摘されており、解決すべき課題となっている。また、中山間地区や島嶼部での薬剤師不足は医師不足より深刻であり、病院に薬剤師が常駐しないことにより医師が薬剤師の仕事も担い、それが医師の過剰労働に繋がって「医師の働き方改革」の足枷の一つにもなっている。このような状況にあつて広島県では、広島県医師会が中心となり広島県・市行政、広島大学、薬剤師会等関係団体が協力して、県内の保健・医療・福祉に関する事項について総合的に検討する「広島県地域保健対策協議会」を組織し、広島大学薬学部(本学)もそこに長く参画して中山間地域や島嶼部での医療従事者不足による地域医療の衰退を目の当たりにし、同時に地域医療対策に長く取り組んでいる。また、広島県薬事審議会においても本学教員が議長を務め、「広島県におけるかかりつけ薬剤師・薬局推進に向けたアクションプラン」の策定と実施など、地域医療活動に継続的に寄与している。さらに本学では、薬学部のない島根県においても、島根県庁薬事衛生課や島根県内病院へ卒業生を輩出し、地域医療活動へ貢献するとともに、島根県内高校への出前授業を長年行うなど、広島県に留まらず県を超えた薬剤師育成と地域医療への貢献を行なっている。一方、令和5年度には、本学が中心となり広島県、広島県病院薬剤師会、および広島県薬剤師会で薬剤師配置のコントロールタワーを形成し、県内での薬剤師のマッチング、派遣、研修支援等を行う「地域医療を維持する薬剤師の派遣及び研修体制構築検討事業」を開始し、薬剤師の地域偏在の解消に向けた活動に着手している。このように、本学は地域医療を自らに課せられた課題であると真剣に捉え、四半世紀以上にわたり行政や関係諸団体との関係構築を図り地道な活動を続けており、本事業を推進する土台は構築できていることから、これまでの活動を進化させ、薬剤師の安定的配置とシームレスな医療連携による「医師の働き方改革のタスク・シェア/シフト」への貢献も含め、より持続的な地域医療体制の構築を目指して本事業を計画するに至った。

【地域における薬学実務実習等の充実】

地域における薬学実務実習等：

広島大学薬学部では、6年制への移行前から1ヶ月の病院実習(大学病院及び近隣病院)と1週間の薬局実習(近隣薬局)を実施する、さらに、臨床系大学院において半年間の病院実習と2週間の薬局実習を行うなど、古くから地域における薬学臨床実習の充実に努めてきた。また、6年制薬学臨床実習では、薬局実習は近隣薬局を中心に行い、病院実習については、多くの国立大学が6年制への移行と共に附属病院薬剤部での実習に留まる中、従前より実習を行なってきた病院からの強い要望もあり、大学病院薬剤部を中心として、広島県立病院、マツダ病院、JR広島病院など、近隣の病院薬剤部での実習を継続しており、地域医療における薬剤師を常に意識した活動を続けている。さらに最近では、薬局実習先も中山間地域や広島市以外の地域に拡大し充実を図っている。

支援体制：

本事業を支援する学内組織としては、実務実習委員会および入試委員会が主に担当し、実務家教員としては薬学部併任の広島大学病院薬剤師2名（教授、助教）を合わせて4名が配置されている。また、学外組織としては「広島県地域保健対策協議会」、「広島県薬事審議会」に本学教員2名が引き続き参画し、広島県薬務課との連携も含めて活動する。また、広島県薬剤師会及び広島県病院薬剤師会にも教員2名が理事あるいは会長・副会長として参画しており、連携を取りながら本事業を進める。さらに、島根大学ならびに島根県薬事衛生課と連携して、島根大学医学部附属病院、島根県立中央病院、浜田医療センターでの実務実習を支援する。さらに、課題の1つである中高生への啓発活動については、広島県や島根県のSSH校の運営指導委員として本学教員が携わっているなど、高校との協力体制は既に構築できている。一方で中学校との関係は希薄であることから、各県教育委員会、行政と連携して新たな協力関係を構築し推進していく。

③取組の内容

【具体的な構想・計画】

下記の1)～3)の事業を通し、県や職域の垣根を超えたシームレスな連携と活動によって、薬剤師の安定的配置とシームレスな医療職種間連携に貢献できる「ヒロダイ薬学教育拠点」を構築する。

1) 地域医療連携協働体「地域医療薬学コンソーシアム」と「地域薬剤師配置システム」の構築（ポンチ絵取組1）

1-1) 大学、行政、医療関連団体等による協働体「地域医療薬学コンソーシアム」の設置

・大学、県行政、県薬剤師会、県病院薬剤師会等で構成される協働体「地域医療薬学コンソーシアム」を設置し、地域における薬剤師の確保、地域医療体制の維持、薬学研究を通じた地域医療への貢献を推進する。

1-2) 「地域薬剤師配置システム」の構築

・令和5年度実施が計画されている広島県「地域医療を維持する薬剤師の派遣及び研修体制構築検討事業」を主導し、広島県内の医療体制維持を図る。薬剤師の安定的配置により、地域の医療ニーズ（在宅医療等）に貢献することに加え、医師とのシームレスな医療連携による「医師の働き方改革のタスク・シェア/シフト」へ繋げ、医師の働き方改革に貢献することを目指す。さらに、システムを使つての薬剤師間のコミュニケーション促進により、薬剤師の孤立を防ぐ。

・広島県地域保健対策協議会及び広島県薬事審議会を介して地域医療へ貢献する。

2) 「ヒロダイマッチングシステム」の開発（ポンチ絵取組2）

・医学では大学・学生と医療機関を繋ぐマッチングシステムがあるが、薬学ではこのようなシステムがないため、大学・学生と医療機関が乖離しているのが実態である。そこで、医療機関は求人や研修の情報（臨床実習含む）を、学生や薬剤師は就職や研修の希望をWEBで登録し、検索結果に基づき学生や薬剤師が求人情報の詳細を得て応募を行う、実習、就職、薬剤師の生涯研修をシームレスに繋ぐ全国初のマッチングシステム「ヒロダイマッチングシステム」を構築する。本システムは、下記取組3)での「地域医療セミナー」、中山間地域・島根県での「臨床実習」、県薬務課等での「学生インターンシップ」と「教職員人材交流」における情報の提供と収集、マッチングにも活用する。

【地域における薬学実務実習等の充実】

3) 職域と県を超えた連携教育（ポンチ絵取組3）

大学生対象：

「薬学臨床実習」とは、授業科目「臨床実習A」、「臨床実習B」および「臨床研究」の3科目で構成した教育プログラムを指し、従来の実習科目に下記3-1)、3-2)の新しい視点での取組を加えてさらなる発展を図り、地域医療を支える心と行動力を育成する。

3-1) 広島県中山間地域および島根県の病院・薬局での臨床実習

・都市部での臨床実習を終えた学部生が、広島県中山間地域の病院、島根県の病院・薬局での2週間の臨床実習を実施する。ここでは、年限を決めて地域で働く、市内の基幹病院から地域へ転職するなど、学生の地域医療に対する考え方を変えるような工夫を行い、学生の意識変容を図る。

3-2) 県薬務課等でのインターンシップ

・薬学部生を広島県薬務課等行政機関へ派遣し、地域医療行政を学ぶためのインターンシップを実施する。

中高生対象：

広島県、島根県の中高校生を対象にして下記3-3)を実施し、中高生が地域医療を自らの課題と捉え、将来自らで行動する心と行動力を育成する。

3-3) 薬剤師と薬学研究の魅力の伝導と地域医療への意識の醸成

・SSH校での研究指導を行い、研究の楽しさを実感させるとともに、課題発見解決能力の育成を図る。

・地域薬剤師会・病院薬剤師会および行政との連携による「地域医療セミナー」を実施し、高齢者の医療体験談などを知ることにより、地域医療の重要性を自らの課題として実感させる。

- ・中学生に対しては、大学病院での職業体験を実施して中山間など地域医療の現状と課題をテーマにしたセミナーを開催し、自らの地域の医療課題を考えるきっかけを与える。
 - ・「オンライン・バーチャル植物園」を構築し、同時に令和2年度に採択された「VRでニューノーマルを拓く、学びのパラダイムシフト ～ニューノーマルの新たな教育実現に向けた「バーチャルクラスルームデジタルラーニング(VCDL)」環境の構築～」(大学改革推進等補助金：デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン)で開発した「教育効果の向上に資する薬学デジタル教材」と併せ、どの地域からいつでも薬草園や薬学実験実習の見学が可能な環境を整備し、薬学への興味の醸成を図る。
 - ・長期休暇を利用して中高生向け「大学訪問実験実習」を開催し、研究の楽しさを実感させ、新型コロナウイルス感染症パンデミックのように予測不能なことにも対処できるよう、課題発見解決能力の育成を図る。
- 教職員対象：
- 3-4) 県等職員と大学との人材交流
- ・広島県薬務課等行政機関と大学教職員との人材交流を図り、地域医療を推進する。

④新規性・先進性

医学では大学が地域医療の中心として活動する、臨床実習や卒後研修において学生と医療機関を繋ぐマッチングシステムがあるなど、地域医療を支えるための各種システムが構築されているが、薬学ではこのようなシステムがないため、大学・学生と医療機関が乖離しているのが実態である。そこで、自治体や関連団体と連携を取り「地域医療薬学コンソーシアム」を新たに設置し、そこを中心に中山間地域の薬剤師を確保する「地域医療薬剤師配置システム」を構築して、例えば年限を決めて地域で働く、市内の基幹病院から地域への転職をサポートする、中山間地域で孤立しがちな薬剤師にコミュニケーションの場を提供して孤立を防ぐなどを含め、薬学部と大学病院薬剤部が薬剤師安定配置の一翼を担い、地域医療体制を維持する仕組みを作ることは全国で初めての試みである。この「地域医療薬剤師配置システム」を効果的効率的に運用するための、地域医療施設、学部生、薬剤師の各々のニーズに合わせたマッチングが可能なシステム「ヒロダイマッピングシステム」の開発は全国で初めての試みである。

多くの私立大学ではふるさと実習として出身地区の病院や薬局での臨床実習を行なっているが、学生が出身地区での長期にわたる実習を受けて生活することにより、地方の不便さが再認識されて都会ではない土地での生活に対する忌避行動へ繋がり、逆にふるさとへのUターンの障壁になっているという指摘もある。本取組では、広島大学病院や広島市内の都市部での病院と薬局での実習を受けた学部生が、その後、広島県中山間地区や島根県の病院や薬局での臨床実習を経験することにより、地域課題をより客観的に捉えることができ、さらに地域医療体験に基づくプロフェッショナルとしての充実感を得ることが可能となる。2週間という短期間だからこそ、客観的に目の前で起きている課題を捉え、その解決の必要性を実感することができることを目指している点の特徴である。

また、大学に入ってから地域医療を考えるよりも、中学生、高校生の時から地域医療の課題を自らのものとして考えることが重要であり、他人事ではなく自分の力で地域を支えたいというマインドを持った中高生を、本学への入学に限らず広く国公私立大学薬学部への進学を推進する本システムの構築は、全国のモデルケースとなり、全国的な薬剤師の安定的配置に貢献できる。

さらに、中山間地区や島嶼部での薬剤師不足は医師不足より深刻であり、病院に薬剤師が常駐しないことで医師の過剰労働に繋がり、「医師の働き方改革」の足枷になっている。本取組による中山間地域や島嶼部での薬剤師の安定的配置は、地域の医療ニーズ(在宅医療等)に貢献することに加え、単に医師が肩代わりしていた薬剤師業務の解消に留まらず、医師とのシームレスな医療連携による「医師の働き方改革のタスク・シェア/シフト」へ繋がり、医師の働き方改革へも貢献できる。

これらの取組を戦略的に統合させることにより、どんな地域でも持続可能で安心・安全な医療を提供でき、「医師の働き方改革のタスク・シェア/シフト」へも貢献する薬学部中心の体制「ヒロダイ薬学教育拠点」を構築することで、これが全国に波及することにより、わが国全体の持続的医療の実現に貢献できる。

本取組でチャレンジする、「地域薬剤師配置システム」の構築と「ヒロダイマッピングシステム」の開発は、これまで教育研究機関である薬学部が地域偏在という社会的課題に積極的に着手してこなかった中での取組の一つであり、新規性は極めて高い。そして、この2つのシステムが無い限り薬剤師の地域偏在を解消することはできず、薬学部と薬剤師のあり方を大きく変える歴史的なチャレンジと言える。さらに、これら社会システムの構築と中高生から大学生・社会人までの教育プログラムを一体化して実施して未来を拓くという戦略的着想が、本取組の最大の特徴である。

⑤達成目標・アウトプット・アウトカム（評価指標）（※1ページ以内【厳守】）

(達成目標)

【地域における臨床実習等の充実】

- 1) 大学が中心となる連携体制の構築
 - ・大学、行政、県医療関連団体で連携し、薬剤師の安定供給が可能となり、薬剤師の生涯教育も充実する。
 - ・中山間地域等での薬剤師の安定配置により、シームレスな医療連携が可能となり、「医師の働き方改革のタスク・シェア/シフト」へ貢献できる。
- 2) 薬学部も地域医療の一員として、地域を支える薬剤師安定配置システムの構築
 - ・薬学部、大学病院薬剤部が薬剤師安定配置の一翼を担い、地域医療体制を充実させることにより、どんな地域でも持続可能で安心・安全な医療を提供できる。
- 3) 医療施設や学生の適性に合った出会いを作る「ヒロダイマッピングシステム」の開発
 - ・医療施設、学部生、薬剤師のニーズに合わせたマッチングが可能となり、薬剤師が安定的に確保できる。
- 4) 人材交流体制の構築
 - ・学生、教員、県職員が自由に人材交流を行い、地域医療体制が充実する。
- 5) 中高生の段階から地域医療の大切さを想う心の醸成
 - ・様々なイベントを通して中高生へ地域医療の重要性を啓発し、自らが地域を支える人材を育成してU・Iターンを促進する。
 - ・予測不能な事態へ対処するために必要な、課題発見解決能力を早い時期から育成する。

(インプット)

【地域における薬学実務実習等の充実】

- 教育研究支援者 19名（内実務家教員4名）
 広島県薬務課職員 1名
 広島県地域保健対策協議会関係者 10名
 広島県薬剤師会及び広島県病院薬剤師会 10名
 島根大学医学部附属病院薬剤部 5名
 島根県薬事衛生課職員 1名
 島根県薬剤師会及び島根県病院薬剤師会 6名
 広島県教育委員会及び島根県教育委員会 各1名

(アウトプットと評価指標)

- ◆教育プログラムの開設数
 - ・地域医療薬学コンソーシアムの開催数：6回/3年間
 - ・ヒロダイマッピングシステムの利用件数：20件/年
 - ◆本事業で構築した教育プログラム等を履修した学生数
 - ・広島県中山間地区及び島根県における実務実習学生数：20名/年（初年度10名）
 - ・広島県薬務課でのインターンシップ学生数：5名/年
 - ・広島県薬務課と本学との人材交流数：20名/3年間
 - ・広島県及び島根県中高生への「地域医療セミナー」実施回数：2回/年/県
 - ・広島県高校生の体験実験参加者数：20名/年
 - ・SSH校での研究指導回数：2回/年
 - ◆本事業で構築した教育プログラムにおいて連携する実習受入機関数
 - ・広島県中山間地区及び島根県における実務実習施設数：7病院/3年間、5薬局/3年間
 - ◆教材等の教育コンテンツの作成数
 - ・オンライン・バーチャル植物園：1本/初年度
- ◇広島県内中山間地区及び島嶼部への薬剤師派遣数：6名/3年間

(アウトカムと評価指標)

- ◆地域医療を志す学生の増加：200%増加/最終年度（アンケート回答による結果を反映）
 - ◆教育プログラム等を終了後の人材のキャリア（修了者の大学、自治体等における具体的な就職状況等）
 - ・広島県中山間地区及び島根県の病院・薬局への就職者数：100%増加/最終年度
 - ◆事業成果の発信状況：本学ホームページでの情報発信、SSH校研究発表、広島県・島根県の薬剤師会・病院薬剤師会ホームページでの情報発信、シンポジウムの開催（最終年度）、最終報告書の作成と全国薬系大学への提供
- ◇広島県薬務課からの広島県内中山間地区及び島嶼部への薬剤師派遣数の公表：6名/3年間

2. 事業の実現可能性（※2ページ以内【厳守】）

（1）運営体制

①事業実施体制

行政等との連携体制：

従前よりの活動については「申請に至った背景」に記載した通り、広島県、広島県薬剤師会、広島県病院薬剤師会との連携体制は取れていることからこれを継続させ、さらに広島大学薬学部内に広島大学、島根大学、県行政、県薬剤師会、県病院薬剤師会等で構成される新たな協働体である「地域医療薬学コンソーシアム」を設置して実施に当たる。

マッチングシステムの構築：

地域医療施設、学部生、薬剤師の各々のニーズに合わせたマッチングが可能な新たな「ヒロダイマッチングシステム」を開発し、就職、転職、研修、臨床実習等におけるマッチングを、効率的効果的に行う。

②評価体制

薬学部内に外部委員を含む評価委員会が設置されており、当委員会にて定期的に自己点検評価する。その評価結果に基づき「地域医療薬学コンソーシアム」を中心に課題を解決する。さらに、令和6年度に外部評価のみから構成される中間評価を実施し、完成年度へ向けた改善を図る。

③連携体制（連携大学との連携体制や役割分担 等）

連携大学である島根大学の主な役割は、島根大学医学部附属病院並びに県内病院・薬局での実習の調整と運用であり、本学担当者と緊密な連携の元で薬学臨床実習を実施する。さらに、島根県内で実施する薬局実習との連携も行う。これらのことから島根大学との連携は本取組に欠かせないものであると同時に、薬学部のない島根県の医療体制維持を担う島根大学にとっても本取組は必要不可欠であり、本取組によりWin-Winの関係が構築できれば、全国のモデルケースとなり得る。

④連携体制（都道府県、関係機関等との連携体制や連携の特色 等）

「地域医療薬学コンソーシアム」を通じて、以下の事業を推進する。

- ・医療施設、学生、薬剤師のマッチングを行う。
- ・県薬務課等でのインターンシップ：広島県薬務課等行政機関へインターンシップとして学生を派遣する。
- ・県等職員と大学との人材交流：広島県薬務課等行政機関と大学教職員との人材交流を図る。
- ・島根県薬事衛生課との連携体制は、本学卒業生を核として構築し、事業を推進する。
- ・島根県教育委員会と連携し、島根県内の中高生を対象とした「地域医療セミナー」開催時の広報及び調整を行う。
- ・島根県病院薬剤師会及び島根県薬剤師会と連携し、島根県立中央病院、浜田医療センター、地域薬局における薬学実務実習の調整を行う。

なお、広島県薬務課ならびに島根県薬事衛生課は、県の方針により、「地域医療コンソーシアム」に参画して事業協力者として加わる。

（2）取組の継続・事業成果の普及に関する構想等

①取組の継続に関する具体的な構想

- ・「地域医療薬学コンソーシアム」の交通費については、事業終了後は行政、薬剤師会等の構成団体が負担することにより継続が可能である。
- ・「地域薬剤師配置システム」および「ヒロダイマッチングシステム」の維持については、事業終了後は行政、薬剤師会等の構成団体が負担することにより継続が可能である。
- ・広島県中山間地区及び島根県の病院や薬局における薬学実務実習を実施するためには、実習先への学部生の交通費や宿泊費、実習先指導薬剤師への手当て、訪問指導する本学教員の交通費が当面は必要であるが、事業終了後は、学部生の交通費については受益者負担とし、宿泊費は実習施設の宿舎等を利用し、指導薬剤師手当てと訪問指導本学教員の交通費は本学が支出することにより継続が可能である。

・オンライン・バーチャル薬草園とマッチングシステムについては、本事業期間での整備で継続が可能である。

・本学はこれまでに、文部科学省社会的ニーズに対応した質の高い医療人養成推進プログラム「実践的ヒューマン・コミュニケーション教育（平成18～20年度）」、文部科学省現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代GP）「地域連携薬剤師高度化教育プログラム（平成18～21年度）」、文部科学省大学改革推進事業（専門的看護師・薬剤師等医療人養成事業）「高度医療専門職チーム力・臨床指導力の育成（平成23～25年度）」の補助を受けて様々な先進的教育プログラムの構築に取り組んできた。これらの事業について、例えば薬害被害者を招聘しての合宿勉強会である「患者志向型合宿勉強会」は昨年度も実施する（新型コロナ禍のため令和2年度のみ中止）など、多くの取組について補助金終了後も自己資金などを活用して継続しているという実績を有している。

②事業成果の普及に関する計画

・本取組で構築した薬学部生と医療機関を繋ぐマッチングシステムを希望する大学へ提供する。

・オンライン・バーチャル薬草園については、全国の薬系大学にURLを通知し、各県での中高生に向けた普及活動に活かす。

・事業全体の活動については、本学ホームページでの情報発信、SSH校研究発表、広島県・島根県の薬剤師会・病院薬剤師会ホームページでの情報発信、シンポジウムの開催（最終年度）、最終報告書の作成と全国薬系大学への提供を通し、全国薬系大学の教育プログラムの向上に資する。

③教学マネジメント体制の整備状況

広島大学では、「平和を希求する精神」等の理念5原則に基づき、三つのポリシー（DP, CP, AP）を定めている。さらに、卒業時の到達目標を明確にし、知識や能力などを身に付ける到達目標型教育プログラム（HiPROSPECTS®）を平成18年度から導入するなど、他大学に先駆けて教学マネジメント体制を構築し、本学の伝統と実績を活かした教養教育と、世界トップレベルの研究に裏打ちされた国際的に通用する専門教育による人材育成を行っている。

本学では、教育本部に全学教育統括部、教務委員会、教育質保証委員会を設置し、全学的な観点で教育のPDCA体制を構築している。全学教育統括部では、全学共通教育の質の向上や全学共通教育に係る授業科目の開設などについて所掌しており、教務委員会では、学士課程並びに大学院課程の教育に係る企画及び立案などを行っている。さらに、教育質保証委員会では、各教育プログラムが改善計画を含む自己点検評価結果をまとめた「年次報告書」を点検・評価し、更なる改善を当該教育プログラムへ提示して、教育の質の向上を図っている。

開講授業科目については、学生の意見（意識）等を把握し、授業についての教育組織と担当教員の認識を高め、カリキュラムや授業方法等を改善するためにターム（1年を4期に区分）ごとに授業改善アンケートを実施し、学生からのコメントに対しては教員が回答して改善された点については次年度シラバスの備考欄に書き込んでいる。また、学修・教育の短期的・長期的成果を把握・可視化し、教育改善につなげるため、卒業時及び卒業後5年経過した卒業生を対象としたアンケートを実施している。

教職員の資質・能力の向上を図るため、人材育成推進本部にFD委員会とSD委員会を設置して、教職員に必要な資質・能力を設定し、組織的かつ体系的に研修を実施している。また、教員の活動は、大学独自の目標達成型重要業績指標A-KPI®（Achievement-motivated Key Performance Indicators）

並びに教員の職務遂行エフォートを全学共通の尺度で指標化し可視化するB-KPI®（Basic Effort Key Performance Indicators）により可視化され、常に自らの資質向上を促進する仕組みとなっている。さらに、IR本部では、学内外の様々なデータの収集、分析及び可視化、IRデータを用いた企画立案やIRに携わる職員の人材育成を行っている。

薬学部の外部評価については、平成30年度に薬学教育評価機構による評価を受審し、その際、上記HiPROSPECTS®のPDCAサイクルによる薬学教育プログラムの改善が毎年具体的に図られていることが高く評価されている。また、教育の質保証及び学生支援（サービス）の改善と充実に資することを目的とした学生アンケートを実施した結果を公式ウェブサイトにおいて公表すると共に教育や学生サービスの改善に繋げていることも高く評価されている。さらに、大学の経営協議会メンバー（全て学外者）による点検評価も、学生からの意見聴取も含めて年に2回実施されており、例えば一時的に留年者が多かったことへの指摘に対応し、その後改善されるなど、常に教育改善に取り組んでいる。

3. 実施計画（※1ページ以内【厳守】）

(1) 年度別の計画

令和5年度	<p>① 5月 バーチャル薬草園のための撮影開始※ ② 7月 「地域医療薬学コンソーシアム」, 「地域薬剤師配置システム」構築のための準備委員会の開催と設置 ③ 8月 広島県中山間地区及び島根県における実務実習に関する打ち合わせ ④ 8月 島根県及び広島県における中高生対象「地域医療セミナー」の開催 ⑤ 8月 「ヒロダイマッピングシステム」の開発 ⑥ 10月 広島県中山間地区及び島根県における薬学実務実習の実施 ⑦ 12月 広島県薬務課による「地域医療を維持する薬剤師の派遣及び研修体制構築検討事業」への参画 ⑧ 12月 広島県薬務課等行政機関と大学教職員との人材交流 ⑨ 3月 高校生による大学訪問実験実習およびSSH校研究指導 ⑩ 3月 広島県薬務課等でのインターンシップ ⑪ 3月 バーチャル薬草園完成 ⑫ 3月 次年度広島県中山間地区及び島根県における実務実習に関する打ち合わせ ※令和2年度に採択された「大学改革推進等補助金：デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン」で整備した、VR教材開発のための機材を用いて作制するため、事業の採択に関わらず実施可能である。</p>
令和6年度	<p>① 4月 「地域薬剤師配置システム」運用, 「地域医療薬学コンソーシアム」開催 ② 4月 オンライン・バーチャル薬草園運用開始 ③ 5-11月 広島県中山間地区及び島根県における薬学実務実習の実施 ④ 8月 島根県及び広島県における中高生対象「地域医療セミナー」の開催 ⑤ 8月 「ヒロダイマッピングシステム」の改良 ⑥ 8-12月 広島県薬務課による「地域医療を維持する薬剤師の派遣及び研修体制構築検討事業」への参画 ⑦ 10月 中間評価 ⑧ 12月 広島県薬務課等行政機関と大学教職員との人材交流 ⑨ 3月 中高校生による大学訪問実験実習およびSSH校研究指導 ⑩ 3月 広島県薬務課等でのインターンシップ ⑪ 3月 次年度広島県中山間地区及び島根県における実務実習に関する打ち合わせ</p>
令和7年度	<p>① 4月 「地域薬剤師配置システム」運用, 「地域医療薬学コンソーシアム」開催 ② 4月 オンライン・バーチャル薬草園運用開始 ③ 5-11月 広島県中山間地区及び島根県における薬学実務実習の実施 ④ 8月 島根県及び広島県における中高生対象「地域医療セミナー」の開催 ⑤ 8月 「ヒロダイマッピングシステム」の完成 ⑥ 8-12月 広島県薬務課による「地域医療を維持する薬剤師の派遣及び研修体制構築検討事業」への参画 ⑦ 12月 広島県薬務課等行政機関と大学教職員との人材交流 ⑧ 3月 中高校生による大学訪問実験実習およびSSH校研究指導 ⑨ 3月 広島県薬務課等でのインターンシップ ⑩ 3月 次年度広島県中山間地区及び島根県における実務実習に関する打ち合わせ</p>